

# 高島地域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

## 第2回協議会 報告

日時：平成26年4月21日（月）10:00～12:00

場所：高島市役所高島支所 2階会議室

本協議会は、国・滋賀県・高島市が共同して設置するもので、専門的な学識経験等に基づく助言を得ながら、琵琶湖及び地域内を流下する河川(普通河川を含む)の洪水により、将来にわたって人命被害を含む壊滅的な被害が生じる恐れのある地域を対象に、「自分で守る」「みんなで守る」「地域で守る」の視点に立った水害・土砂災害対策を検討することを目的としています。

### 1. 開 会

会長の山本高島市政策監より、昨年の台風18号で、高島市では、鴨川が決壊するなど大変な災害となり、市の防災上の課題が浮き彫りとなった。この災害を受けて、より本協議会を推進していく必要があると考えており、市民が適切な避難行動をとれるよう、本日の協議会が実り多いこととなるようお願いしたいとの開会の挨拶をいただきました。



### 2. 議 事

#### (1) 協議会の今後のスケジュール（資料2）

##### ■事務局説明

- ・今年度防災情報WGの活動で、昨年の台風18号の出水を考慮した避難判断基準の目安となる水位の検討や、地域防災計画の課題抽出を行い検討していくこと、また、地域づくりWGの活動では、水害、土砂災害に関して、今後取り組んでいくモデル地区の選定、現状把握および活動方針を決めていくことを考えている。さらに、平成27年度以降は、防災情報WGの活動で、今年度検討ができなかった避難判断基準の目安となる水位の検討などを行うとともに、地域づくりWGの活動で、モデル地区での出前講座、図上訓練および避難訓練などの取り組みを進めるとともに、浸水警戒区域の指定にも取り組んでいくことを説明しました。

##### ■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・モデル地区の選定は、浸水深が大きいところを優先する必要があります。
- ・浸水警戒区域は、地先の安全度マップに基づき、地域の合意形成を図り指定していきます。
- ・浸水警戒区域の地区は、市民からすると重たいと思うので、協議会の地域づくりWGで十分説明、議論していく必要があります
- ・台風18号を通じて、地先の安全度マップのリスク情報を周知する必要性を感じました。
- ・土砂災害はモデル地区を選定して具体的にどのようにするのですか。  
⇒土砂災害については、具体的な避難判断の基準を作るのは難しいが、適切な避難行動を決め

ることはできると思います。正確な情報を地区の方から受けるのも重要で、そのようなシステムづくりも必要です。

- ・土石流の発生する溪流にセンサーを設置する検討をして欲しい。  
⇒高島市は山が多くあり、経済的にすべてを警戒することは難しい。

#### ■まとめ

協議会の今後のスケジュール（案）について、事務局より説明したとおり進めていくことで承認されました。

### (2) 台風 18 号の出水を考慮した避難勧告基準の検討（資料 3）

#### ■事務局説明

- ・台風 18 号により判明した災害時における課題の抽出と課題の対応案について、検討結果を報告しました。また、平成 25 年度に設置した簡易量水標の報告をしました。さらに、台風 18 号の出水を踏まえて、鴨川と石田川において、実際の浸水被害を考慮した避難判断基準の目安となる水位設定案と安曇川と鴨川の避難勧告対象地区の見直し案について検討内容を説明しました。

#### ■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・簡易量水標の設置の仕方が、設置場所によって違い、住民等がわからないと思うので整理が必要です。
- ・量水標の設置は、市内のどこにいても通じるような表示で、今後も進めてほしい。
- ・安曇川について、常安橋では氾濫危険水位を超えているのに、舟橋では避難判断水位を超えている程度なので、危険水位、避難判断水位の見直しが必要ではないですか。  
⇒安曇川については、洪水予報河川への検討が必要と考えており、改定された避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン（案）により検討を行うこととなります。舟橋の水位計については、状況を確認します。
- ・見直し後のガイドラインでは屋内避難の考え方もあるようなので、立ち退き・屋内避難をどう判断するのか細かい部分を検討して欲しい。

#### ■まとめ

鴨川と石田川の避難判断基準の目安となる水位の設定、および安曇川と鴨川の避難勧告対象地区の見直しについて、事務局より説明したとりの内容で承認されました。

### (3) 台風 18 号における浸水状況の検証（資料 4）

#### ■事務局説明

- ・台風 18 号の浸水状況と地先の安全度マップとを比較し妥当性の検討を行い、概ね整合がとれていることを確認したことを報告しました。

#### ■質疑応答・意見交換（主な意見）

- ・現在の市のハザードマップは、平成 21 年度に作成したもので、安曇川と琵琶湖の浸水想定区域図と流域治水の検討結果を重ね合わせたものを載せており、さらに、それぞれを裏面に載せている。ハザードマップを更新する際、どのようなハザードマップを作成すればよいか、協議会で助言をいただきたい。
- ・浸水想定区域図は水防法に基づき作成するもので、市民の皆さんに周知していただく必要があります。地先の安全度マップを包含するようなイメージをもっていただけるとありがたいので、それぞれを重ね合わせるといった形になると思います。考え方が異なるので、それぞれを活用してほしい。
- ・住民にとって正しいのはこれだというものを 1 つ協議会で決めてほしい。

- 基本的にハザードマップは大量に必要で、一枚のマップが実際の事象を表しているというのは間違っています。よって、複数のマップがあることは間違っていない。一つのマップにすればわかりやすい反面、それが答えだと思われてしまう弊害があります。
- 地先の安全度マップについて、住民の方の情報を反映していただきたい。  
⇒市町さんに同意の確認をさせていただく際、ご意見をいただければと思います。

#### ■まとめ

報告内容について確認いただきました。

以上